



釧路火力発電所についての講演に聞き入る会員ら

釧路火発の役割学ぶ

あすなろ例会 KCM松本さん講演

地元企業の経営者らが研修と交流を続けている釧路あすなろクラブ(中島康秀会長)の2月例会が12日、釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれた。釧路コールマイン(KCM)の松本裕之専務が講師となり、「釧路火力発電所の果たす役割―釧路コールマイ

ンと火力発電所について」をテーマに講演した。

松本専務ははじめに世界と日本のエネルギー・電力需給動向について「石炭は発電コストが低く、可採埋蔵量は100年以上。アジアを中心に需要は高まり、今後はアフリカの動向も注視したい。さらに世界に向け、技術供与と研修が重要になってくる」と釧路コールマインの技術移転の重要性を強調した。胆振東部地震と大規模停電に触れ、「道東には大型火力発電所がな

い。北海道の送電線は限定的で、西側が中心となっている」と指摘した。

釧路火力発電所については「30層の高台に建設中の釧路火力発電所と日本製紙の火力発電所の二つで釧路の電力需要を賄うことができる。今回採用したボイラーは石炭だけでなく、バイオマス(木質ペレットなど)も燃料にできる。これからの実績と技術をアジア諸国にも情報を発信していきたい」と語った。

(伊東義晃)